

この地質図幅は宮崎県の北部 西臼杵郡と東臼杵郡にまたがる地域で 図幅名となっている諸塚山(標高1341.6m)など1000m以上の山々が北東—南西に連なる山地です。この山地を横切って五ヶ瀬川や耳川とその支流の七ツ山川などが北西から南東に流れ 深い谷を刻みいたるところに美しい渓谷をつくっています。この深い谷に妨げられて 昔は谷沿いの道が少なく 山越えの道が発達した地域ですが 近年は川沿いに道路が作られ九州観光のメッカ 阿蘇山や高千穂と日向の海岸を結ぶ主要観光道路となっています。延岡から高千穂までは国鉄・高千穂線も通っています。更に最近では 交通量の増大に伴い 川沿いの曲りくねった道が嫌われ 川床から比高 100-200m の平坦面を巨大な橋でつないだ超近代的な道路が作られだしています。

この図幅の北西隅には秩父帯の中・古生界が その他には四万十帯の上部中生界や古第三系が分布し これらの地層群の谷間を埋めて阿蘇火砕流堆積物が分布しています。

この図幅の北隣(三田井) 西隣(鞍岡) 南隣(神門)の各5万分の1図幅と20万分の1「延岡」が出版されているので 併せて見ると九州外帯の地質が分かりやすく また 交通事情もよいので巡検などにも都合のよいコースが選べます。高千穂から五ヶ瀬川沿いに下りながら 地質の見所を説明しましょう。

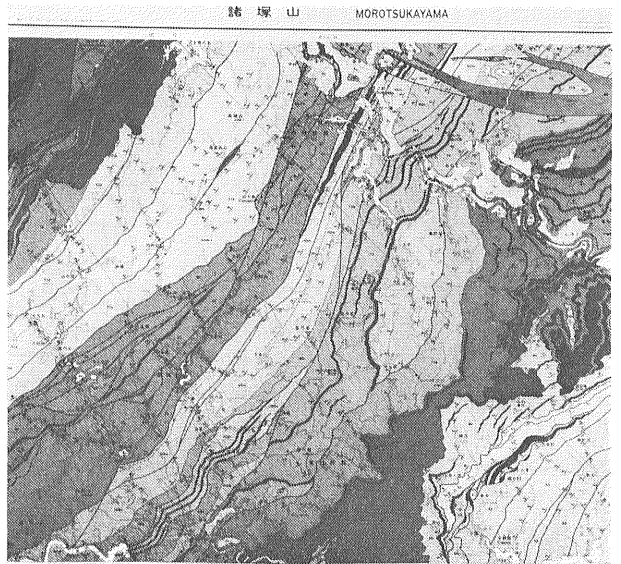
高千穂から新しい国道を使うと 阿蘇火砕流堆積物上面の緩やかな平坦面を通ります。茶畑が点在し 季節によっては一面の白いツバの花を見ることもできます。ですが 川沿いの旧道を行くと 両側は直角にそそり立つ灰色の岩の回廊になります。阿蘇火砕流堆積物中で新しい方の Aso-3 と Aso-4 の堆積物です。この付近には影待・深角・日の影などの地名があります。

このルートでは仏像構造線は見られませんが 秩父帯南縁の三宝山帯の石灰岩が急峻な山をつくっており 南方につき出ている様子を遠望することができます。日の影に近づくにつれて火砕流堆積物は浸食され 川底や両岸に四万十帯の上部中生界(諸塚層群)の砂岩や頁岩が見えてきます。一見単調な岩相ですが層相・砂岩組成・変成度などを総合して地層・構造区分がなされています。かつては鉾山で賑わった横峰に近づく と 泥質岩には片埋が発達し 千枚岩になります。これは四万十累層群の最下部と推定されている地層です。この付近で川底の露頭を探すと 枕状溶岩が見られます。ここから綱瀬川沿いに北上すると 屏風を立てたように目前にそびえる環状岩脈を見ることができ 更に大崩山花崗岩にたどりつきます。

亀ヶ崎を過ぎると 著しく剪断された泥質岩が見られます。これが古第三系の神門層の岩石です。諸塚層群とは10度以下の低角度の衝上断層(延岡衝上)で境されています。

ここで地質図の範囲は終了します。2年後に予定されている延岡図幅の出版時には海岸まで継がります。

自動車を使った巡検では 馬見原から飯干峠を越え 塚原に出て 耳川を下るルートをお薦めします。



5 万分の 1 地質図幅の新刊

諸塚山
MOROTSUKAYAMA

5 万分の 1 地質図幅
地域地質研究報告

著 者 今井 功・寺岡 易司・奥村 公男
神戸 信和・小野 晃司
発 行 工業技術院 地質調査所
取 扱 先 東京地学協会 (03)261-0809 262-1401
そのほか全国主要書店
販売価格 2,390円

地 質 ニ ュ ー ス	第 341 号	1 月 号
	定 価 ¥ 540	訂 実 費
昭和58年1月1日	発 行	
編 集 者	工業技術院 地質調査所	
発 行 人	林 久	雄 雄
発 行 所	株式会社 実業公報社	
印 刷	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03)265-0952(代表)	
	振替口座 東京1-32466	
総発売元	株式会社 実業公報社	出版事業部